

解答

一

1 周囲 2 動向 3 規定 4 主張 5 経営 6 過 7 迷 8 結 9 連

二

1 げんじゅう 2 そな 3 しきゅう 4 ふたん 5 たず

三

1 (1) ウ (2) イ (3) ア 2 製薬業界の～きリーダー 3 ア・エ 4 ウ 5 イ

四

1 a ウ b ア 2 ウ 3 イ 4 エ 5 ア 6 イ

五

問題非公表。

解説

三

出典は、森見登美彦『聖なる怠け者の冒険』。

- 1 (1) 「有無」は、「有ることと無いこと。有るか無いか。」という意味のほかに、「承知と不承知」という意味もある。「有無を言わせず」は後者の意味で用いられていて、「相手が承知するかしないかにおかまいなく、無理矢理強引に」何かをすることをいう。(2) 「囑望」は、人の前途や将来に望みをかけること。「囑望される」という受け身の表現なので、「周りから将来を期待される」という意。(3) 「またたく」は「まぶたをすばやく開けたり閉じたりする。まばたきする」の意で、「またたく間に」は、「一回またたきをするほどのきわめて短い時間。あっという間に」という意味の言葉。
- 2 「津田さん」がソバを打ってみんなにふるまっているときの様子とはちがうことが書かれている部分を読み取る。
- 3 ソバをふるまっているときの「津田さん」の様子を述べたことのうち、大人らしからぬふるまい、子どもっぽい様子が書かれている部分を押さえる。イ・ウは大人としてごく普通のふるまいで、「小学一年生のよう」とはいえない。ソバを打ってふるまうことに「興奮」して「我を忘れて、同じことを三回もくり返し言っ」たり、「声をかけても気づかずに夢中になって支度をしている」様子が、まるで子どものように見えるのである。アやエのような様子の「津田さん」を「初めて参加する運動会」に「興奮」する「小学一年生」にたとえているのであって、「運動会」は現実のできごとではないので、オはあてはまらない。
- 4 「啞然」は、「アと口を開いたままの様子」のことで、あまりのことに、びっくりしたりあきれかえったりして、言葉が出ない様子、という意味の語。いつも会社で見る「津田さん」とあまりにもちがうので、みんなは言葉も出ないほどびっくりしてしまっているのである。
- 5 傍線部の後の、「あんなに……エネルギーを使ったら……疲れて寝込んでじゃうんじゃないかなあ」という「小和田君」の言葉から、かれの心配の内容を考える。

四

出典は、秋田喜代美『読む心 書く心』。

- 1 a 前に書かれている「目で字面を追っても、ぜんぜん頭に入らないという経験」の例が、「～ときです」「～場合です」と空欄aの前後に並べられていて、「頭に入らない」のはそのどちらかの場合なので「あるいは」が入る。
b 空欄bの前に書かれていることをもとにして、「文章が表そうとする意味の世界をつくりあげていく」のだから、付け加えの「そして」でつなぐ。
- 2 1のaで考えたことをもとにすること。「字面を追っても、ぜんぜん頭に入らない」場合の例が空欄aの前後に書かれているが、さらにその後の文で、「具体的に示されている状況や内容がとちゅうでよくわからなくなってしまうと、頭に入ってこなくなります」と、二つの例をまとめている。
- 3 文章を読むときに、「読む気がしない、気が散っている」とどうなるか考える。頭がほかのことにいってしまい、文章の内容に「積極的にかわれな」くなるはず。
- 4 「すでにもっている知識」をもとにして、「文字で書かれていないことまで頭で」たぶんこうなのだろうと想像することが、「推論」。
- 5 「そこにある材料だけで組み立てる」ということを文章理解にあてはめれば、「文章に書かれていることだけを理解する」ということになる。イの「分類する」、ウの「思いうかべる」、エの「ふくらませる」というのは、文に書かれていることを理解した後での作業である。
- 6 アは「文法的なつながりを第一とし」が、ウは「すでに知っている事柄だけをもとにし」がそれぞれ不適切。エのように「そこにある材料だけで組み立てること」と「すでに知っている……意味をつないでいくこと」を「明確に使い分けていく」のではなく、イのようにそれらが「かみ合う必要がある」のである。